

松本文部科学大臣

新年年頭挨拶「実り多い結果残せる文部科学行政を」

松本洋平文部科学大臣は1月8日、文科省
内で職員に向けた新年年頭挨拶を行った。

冒頭、松本大臣は昨年10月の就任からこれまでを振り返り「補正予算、経済対策、そして令和8年度予算編成、また、高校の授業料の無償化、学校給食費の抜本的な負担軽減など中身の濃すぎる2ヶ月余りを過ごしてきました」と語った。そして、「文部科学行政はまさに大きな変革期にある」とし、「これまでの延長線上ではなく、これからの日本の将来や、私たちの目の前に起きている変化というものを把握しながら、ぜひ文部科学行政を進



年頭挨拶を述べる松本文科大臣

めていただきたい」と職員に呼びかけた。挨拶概要は次のとおり。



皆さん明けましておめでとうございます。本年も皆様方のご協力をいただいて、文部科学省としてしっかり行政を前へ進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。昨年を振り返ってみますと、10月21日に文部科学大臣に就任しましたが、臨時国会の対応、補正予算、経済対策、そして令和8年度予算編成と、大変忙しい日々を皆様と一緒に過ごしてきました。

また、高校の授業料の無償化、学校給食費の抜本的な負担軽減、様々な地方自治体を含めた大きな決め事をしなければならぬ、中身の濃すぎる2ヶ月余りを過ごしてきました。昨年中、皆様方に大変お支えをいただき、乗り越えることができましたことに改めて心から感謝を申し上げます。

そして令和8年を迎えたわけですが、この1年は、これからの日本の教育、科学技術、文化、そしてスポーツにとりまして大変重要な1年になる。そんな思いを持ちながらこの新年を迎えたところです。私自身は3つの誓いを今回立てさせていただきました。

1つは、現場主義を改めて徹底してやっていきたいということです。我々のつくる政策のその先端には国民生活があります。子供たち、また保護者の皆様、教職員の皆様、研究をされている皆様、スポーツに携わっている皆様、文化行政に携わっている皆様一人ひとりがいらつしゃいます。私たちは、そうした人たちの目線というものをしっかりと理解をしながら政策を進めていくということが大変重要だと思っています。文部科学行政が、決してそういう人たちの期待に応えられない、上滑りをするのではないように現場目線というものを改めて大事にしていきたいと思います。

2つ目は、手段と目的というものを明確にするということです。昨年末、補正予算、そして令和8年度予算編成がございました。これから国会審議に臨み、そしてこれらの予算を何としてでも成立させていただいて、そしてそれを国民の皆様にとりお渡しをしていかなければいけません。この予算獲得が目的になつてはいないか、私自身、自問自答をしながら昨年末は活動をさせていたところとあります。ありとあらゆる政策をこれから遂行するにあたっては、その目的と手段というものをしっかりと私たちは明確にし、決して取り違えることなく、国民生活が少しでも豊かになるように、そして国民の皆様一



松本文科大臣の挨拶に耳を傾ける幹部職員ら(文科省3階講堂)